第７０回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成２２年４月～６月期

平成２２年４～６月期の国内景気をみると、政策効果等により個人消費は底堅く推移しているが、景気の牽引役である輸出は減速傾向にあり、円高、株安などもあいまって景気回復に一服感がでてきている。

トラック運送業界では、一般貨物では急回復を示した前回の水準をほぼ維持したが、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物では指標の悪化がみられた。最近の原油高により燃料コストが上昇してきており、営業利益の悪化が目立つ。業界の景況感の判断指標は▲５０で、前回（▲４６）から小幅悪化、４四半期連続の改善はストップした。

平成２２年７～９月期の見通しについても、判断指標は▲５４と４ポイントの悪化が見込まれており、先行き不安は拭われていない。

平成２２年７月３０日

社団法人　全日本トラック協会

１．今回（平成２２年４月～６月期）の状況

⑴概況

平成２２年４～６月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は５０％（前回４９％）、「好転」とした事業者は１１％（前回１３％）で、判断指標は▲５０となり、前回から４ポイント悪化した（前回▲４６）。指標の悪化は小幅だが、４四半期続いた顕著な改善傾向はストップした。

貨物別では、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物で指標の悪化が目立つ。

⑵特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が４７％、「増加」とする事業者が２３％で、判断指標は▲３８となり、前回（▲３１）から７ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が４９％、「増加」とする事業者が２０％で、判断指標は▲４４となり、前回（▲３０）から１４ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が４９％、「増加」とする事業者が１５％で、判断指標は▲４８となり、前回（▲３６）から１２ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が３８％、「増加」とする事業者が２３％で、判断指標は▲２３となり、前回（▲１３）から１０ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が３９％、「増加」とする事業者が２１％で、判断指標は▲２５となり、前回（▲２０）から５ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が４６％、「増加」とする事業者が１３％で、判断指標は▲４２となり、前回（▲２２）から２０ポイント悪化した。

⑶一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が３９％、「増加」とする事業者が２２％で、判断指標は▲２２となり、前回（▲２３）とほぼ同水準であった。営業収入は「減少」とする事業者が４５％、「増加」とする事業者が２２％で、判断指標は▲３１となり、前回（▲２９）から２ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が４７％、「増加」とする事業者が１５％で、判断指標は▲４１となり、前回（▲３４）から７ポイント悪化した。

⑷運賃水準

運賃水準は弱含んでいる。宅配貨物は▲３２（前回▲２７）、宅配以外の特積貨物は▲３６（前回▲１６）、一般貨物は▲２８（前回▲２５）となり、再び下落傾向が窺える。

⑸実働率等

実働率は▲２３（前回▲１６）、実車率は▲２３（前回▲１４）で、ともにやや水準を下げている。

雇用状況は▲１３（前回▲１１）で、ほぼ人手の過不足はない状況となっている。採用状況は▲１８（前回▲１８）でほぼ前年並み、所定外労働時間は▲２３（前回▲１５）でやや減少傾向にある。

保有車両台数は▲２３（前回▲２４）、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲２

９（前回▲３０）で前回と同様にやや減少であった。

⑹地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、九州は前回より大きく水準を下げて、地域別で最も厳しい。中部は水準を上げ、地域別で最も良い。

事業者の規模別では、小規模事業者は前回から水準を下げ、悪化となっている。大規模事業者は前回の水準をほぼ維持しており、相対的に景況感は良い。

主な取扱い品目別では、建設関連貨物の水準が低い。機械関連貨物は相対的に良い。

２．今後（平成２２年７月～９月期）の見通し

⑴概況

平成２２年７～９月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲５４で、今回よりもさらに４ポイント悪化する見込み。

⑵特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入は持ち直す見込み。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量、営業収入ともやや水準を下げる見込み。

⑶一般貨物

一般貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益ともやや水準を下げる見込み。

⑷運賃水準

宅配貨物、宅配以外の特積み貨物、一般貨物とも大きな変化はなく、引き続きやや下落の見込み。

⑸実働率等

実働率、実車率とも、引き続きやや低下の見込み。

雇用状況は、人手の過不足はない見込み。採用状況は僅かに低下、所定外労働時間は引き続きやや減少の見込み。

保有車両台数は横ばい、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は引き続きやや減少の見込み。

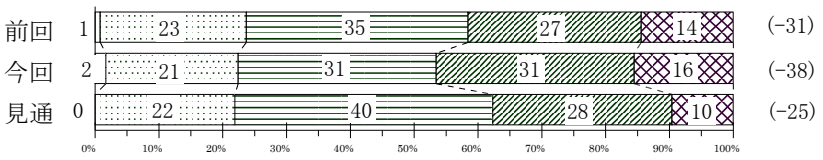
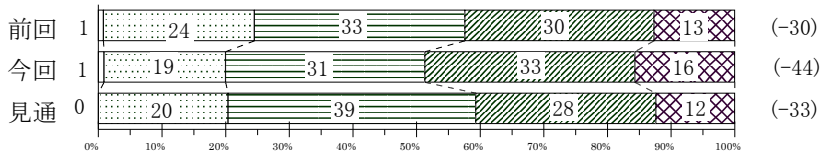
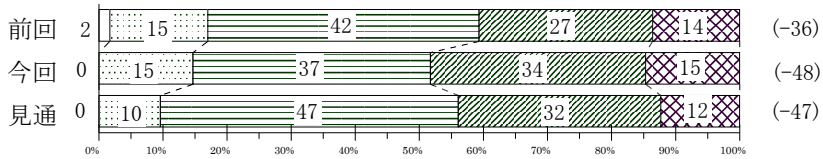
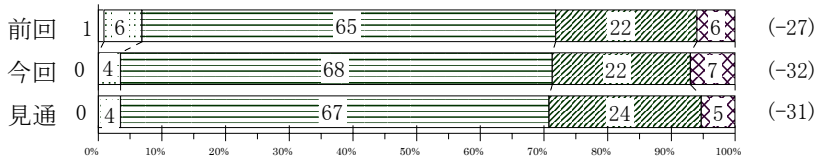
⑹地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、引き続き九州は最も厳しい見込み。中国も悪化となる見込み。

事業者の規模別では、引き続き小規模事業者は悪化の見込み。

主な取扱い品目別では、引き続き建設関連貨物が厳しく、機械関連貨物は水準を下げる見込み。

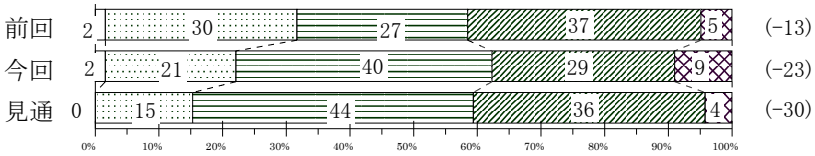
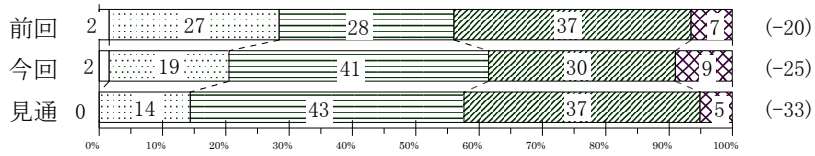
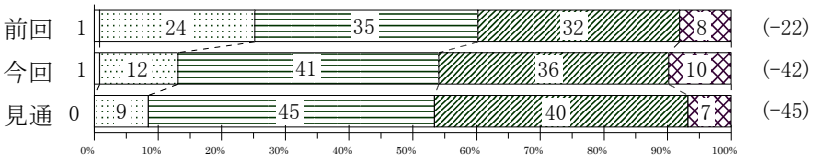
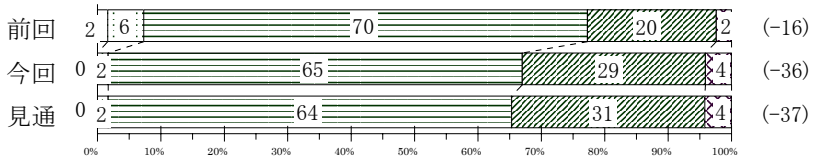
３．特積貨物の概況

項　　目		概　　況
宅配貨物	輸送数量	 ・前回よりやや悪化した。地域別では、東北は大幅減少、九州は減少となっている。北陸信越、近畿は前回から改善がみられる。 ・今後は今回より改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業収入（売上高）	 ・前回より悪化した。地域別では、東北は大幅減少、九州は減少となっている。北陸信越は横ばいを維持している。 ・今後は今回より改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業利益	 ・前回より悪化した。地域別では、東北、九州は減少となっている。近畿は、やや減少ながらも相対的には水準がよい。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。
	運賃・料金の水準	 ・前回よりやや下落した。地域別では、東北は前回から大きく悪化し下落となっている。四国、北海道は横ばいとなっている。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落が続く見込み。

【調査の概要】

◆平成５年３月より開始、以降３カ月ごとに実施。
　今回は平成２２年６月２５日に配布。
　平成２２年７月２３日到着分までを集計。
◆回収率：７０．４％

	特　積	一　般	合　計
調査対象	２５６	６４４	９００
回収数	１２６	５０８	６３４

項　　目	概　　況
宅配以外の特積貨物 **輸送数量**	 ・前回より水準を下げ、やや減少となった。地域別では、九州は大幅減少。中国、関東、中部、北陸信越では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は、やや悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
営業収入（売上高）	 ・前回よりやや悪化し、やや減少となった。地域別では、九州は大幅減少。中国、関東、中部、北陸信越では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は、やや悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
営業利益	 ・前回より悪化した。地域別では、九州は大幅減少。中部では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少の見込み。
運賃・料金の水準	 ・前回より悪化し、やや下落となった。地域別では、東北は下落。北海道、四国、関東は横ばいとなっている。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落の見込み。

凡例

大幅に	増加・上昇・好転・人手不足	＋２点
やや	増加・上昇・好転・人手不足	＋１点
横ばい		０点
やや	減少・低下・悪化・人手過剰	－１点
大幅に	減少・低下・悪化・人手過	－２点

（注1）各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

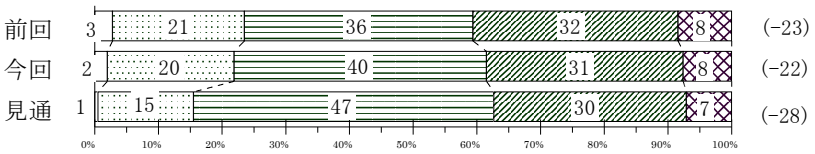
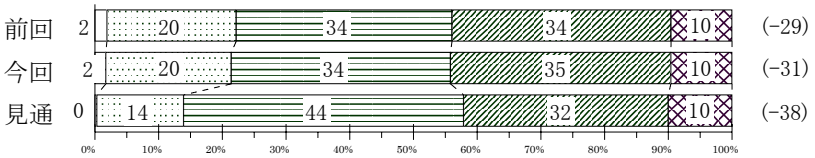
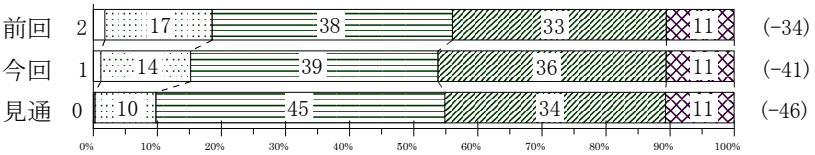
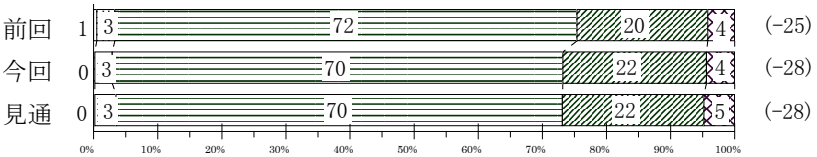
（注2）各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

（注3）グラフ右のｶｯｺ内は業況判断指標。指標は､各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、１事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

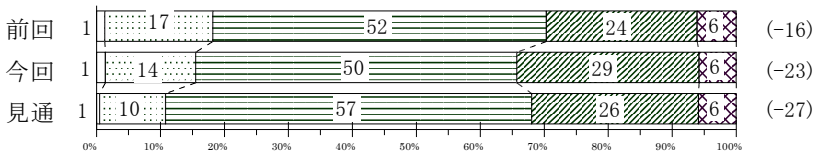
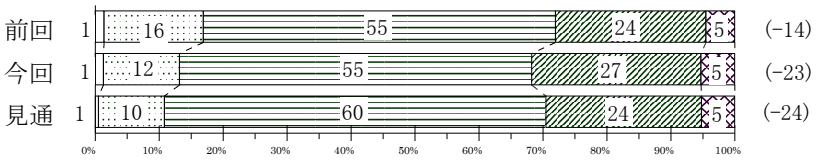
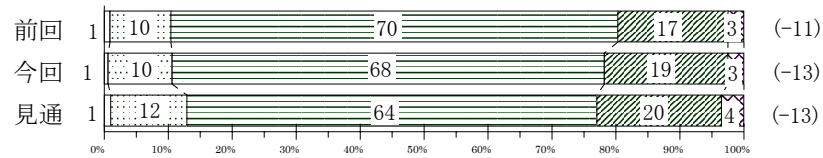
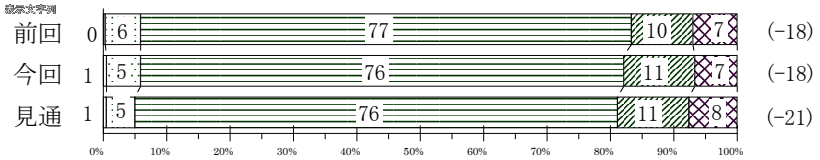
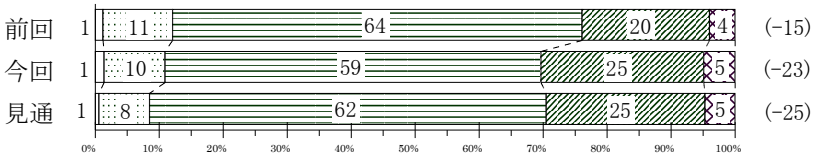
Ａ（設問Ａの回答者数）＝$a_1+a_2+a_3+a_4+a_5$（設問Ａの選択肢１～５の回答数の和）

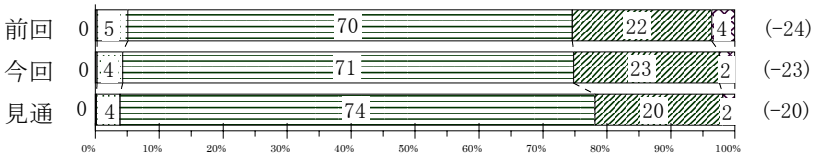
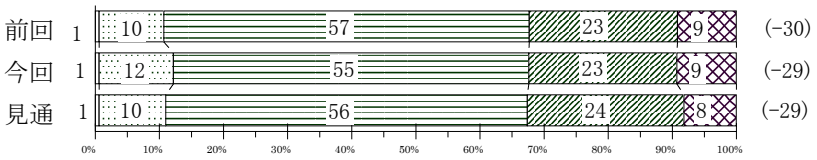
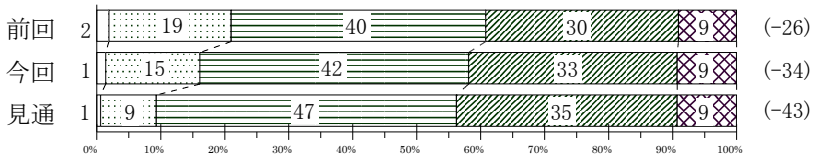
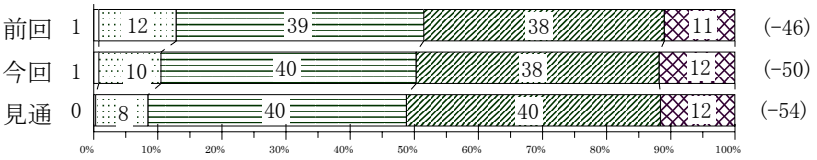
指標＝｛$(+2\times a_1)+(+1\times a_2)+(0\times a_3)+(-1\times a_4)+(-2\times a_5)$｝÷Ａ×100

４．一般貨物の概況

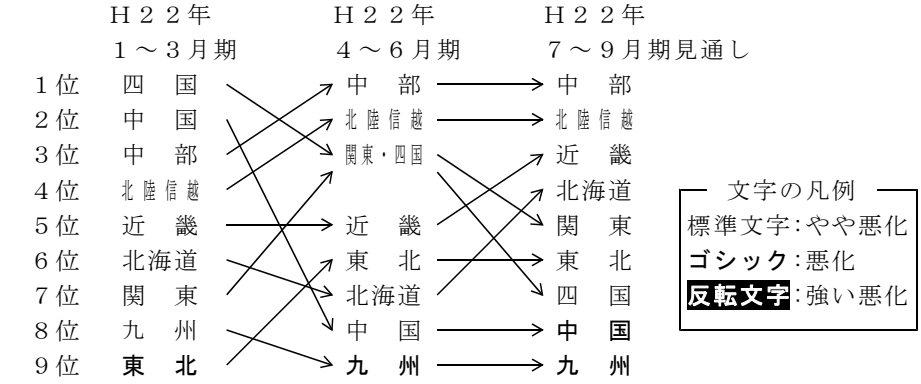
項　　目	概　　況
輸送数量（全　体）	
・前回と同様にやや減少であった。地域別では、東北、中部、四国、北陸信越は減少を免れた。九州は相対的に厳しい。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物、その他貨物は相対的に良く、建設関連貨物は悪い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。	
営業収入（売上高）	
・前回と同様にやや減少であった。地域別では、九州は減少、北陸信越は減少を免れた。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物、その他貨物は相対的によく、建設関連貨物は悪い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。	
営業利益	
・前回よりやや悪化した。地域別では、九州は減少となっている。規模別では、中・小規模事業者の水準が低い。品目別では、機械関連貨物は相対的によいが消費関連貨物の水準は低い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。	
運賃・料金の水準	
・前回と同様にやや下落であった。地域別では四国、北海道は横ばいであった。規模別、品目別の差は小さく、総じてやや下落となっている。 ・今後も今回とほぼ同様で、やや下落の見込み。	

５．共通の概況

項　　目	概　　況
実　働　率	
・前回よりやや水準を下げ、やや低下となった。地域別では九州、品目別では建設関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後もやや低下の見込み。	
実　車　率	
・前回よりやや水準を下げ、やや低下となった。地域別では九州、品目別では建設関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後もやや低下の見込み。	
雇用状況 （人手の過不足）	
・人手の過不足感はない。地域別では中部、九州、東北、品目別では建設関連貨物でやや過剰感がある。 ・今後も人手の過不足はない見込み。	
採用状況	
・前回と同様に横ばいとなっている。地域別では九州、中国、近畿、東北、中国、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物、その他貨物ではやや減少となっている。 ・今後は僅かに水準を下げる見込み。	
所定外労働時間	
・前回よりやや水準を下げ、やや減少となった。地域別では中部、北海道、北陸信越、規模別では大規模事業者、品目別では機械関連貨物、消費関連貨物は減少を免れている。 ・今後もやや減少の見込み。	

項　　目	
保有車両台数	
・前回と同様にやや減少であった。地域別では四国、北海道、関東、規模別では小規模事業者では減少を免れた。 ・今後も今回とほぼ同様の水準が続く見込み。	
貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）	
・前回と同様にやや減少であった。地域別では中部、規模別では大規模事業者で減少を免れた。 ・今後も今回とほぼ同様で、やや減少の見込み。	
経常損益	
・前回よりやや悪化した。地域別では東北、九州は相対的に厳しく、中部は相対的によい。規模別では小・中規模事業者、品目別では建設関連貨物、消費関連貨物が相対的に厳しい。 ・今後も今回よりやや水準を下げ、やや悪化が続く見込み。	
業界の景況感	
・前回より４ポイント水準を下げ、やや悪化となっている。地域別では九州、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物は悪化であった。 ・今後もわずかに水準を下げ、やや悪化が続く見込み。	

６．事業者特性別の特徴

事業者特性	特　　徴
①　**地域（注4）**	・北海道は、全国順位６位から７位に下がり、景況感は悪化。 ・東北は、全国順位９位から６位に上がり、景況感は改善。 ・北陸信越は、全国順位４位から２位に上がったが、景況感は足踏み。 ・関東は、全国順位７位から３位に上がったが、景況感は足踏み。 ・中部は、全国順位３位から１位に上がり、景況感は改善。 ・近畿は、全国順位５位のままだが、景況感はやや悪化。 ・中国は、全国順位２位から８位に下がり、景況感は悪化。 ・四国は、全国順位１位から３位に下がり、景況感は悪化。 ・九州は、全国順位８位から９位に下がり、景況感は大幅悪化。 ◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆ 
②　**規模（注5）**	・業界の景況感は、小規模事業者は前回から水準を下げ悪化となっている。大規模事業者は前回の水準をほぼ維持しており、相対的に景況感は良い。
③　**品目（注6）**	・消費関連貨物は、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、農水産品、日用品の水準が相対的に低い。食料工業品は水準を上げた。今後も大きな変化はない見込み。 ・建設関連貨物は、前回からやや水準を下げ、品目別で最も悪い。一般貨物の輸送数量では、特に鉱産品の水準が低い。林産品、金属製品は水準を上げた。今後も大きな変化はない見込み。 ・機械関連貨物は、品目別では相対的に最も良い。一般貨物の輸送数量では、輸送機械が改善し、やや増加となっている。その他機械も改善した。今後は水準を下げる見込み。 ・その他貨物は前回から水準を下げた。しかし相対的には機械関連貨物の次に良い。一般貨物の輸送数量では、金属製品の水準が相対的に高い。今後は水準を下げる見込み。

（注4）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。
（注5）規模別分類
　　大規模事業者：101両以上　中規模事業者：21両以上100両以下　小規模事業者：20両以下
（注6）品目別分類
　　消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など
　　建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品(セメント等)など
　　機械関連貨物：電気機械(家電含む)、輸送機械(自動車等)など
　　そ の 他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7．景況感一覧表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全　　体		↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
地域	北海道	→	↘	→	→	→	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	→
	東北	↘	⇩	⇩	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	北陸信越	→	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘
	関東	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中部	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	近畿	↘	↘	→	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
	中国	→	↘	⇩	↗	→	↘	→	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘
	四国	→	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘
	九州	↘	⇩	↘	↘	⇩	⇩	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
事業者規模	小規模事業者	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	↘
取り扱い品目	消費関連貨物	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	建設関連貨物	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	機械関連貨物	↘	↘	↘	⇩	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	その他貨物	↘	⇩	↘	→	→	→	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘

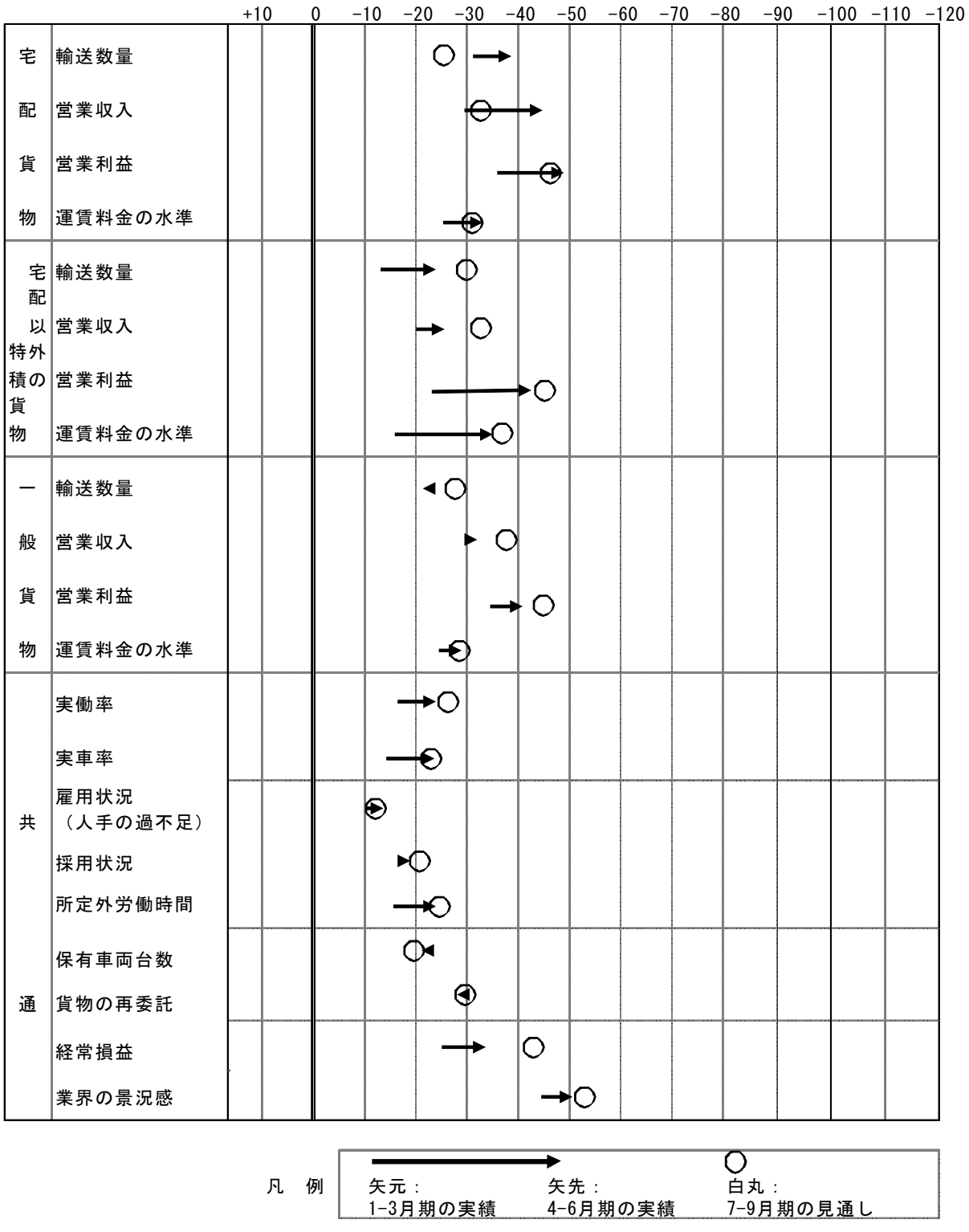
（注7）各項目は、関連する判断指標（前年同期に対する水準）から平均値を算出。
　　貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例 ・各欄は、左：前回（1-3月）　中央：今回（4-6月）　右：見通し（7-9月）

・矢印と判断指標の対応

判断指標	･･･ -100 ･･･ -60 ･･･ -20 ･･･ +20 ･･･ +60 ･･･ +100 ･･･
矢　印	⬇ ⇩ ↘ → ↗ ⇧ ⇧

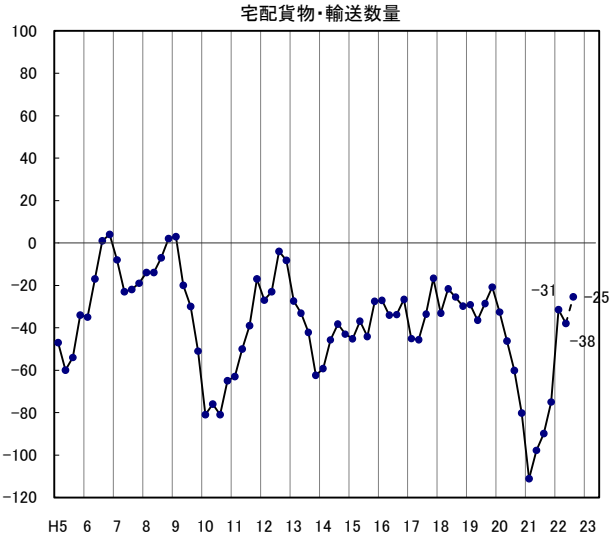
８．業況判断指標の前回調査（平成２２年１月～３月期）からの変化



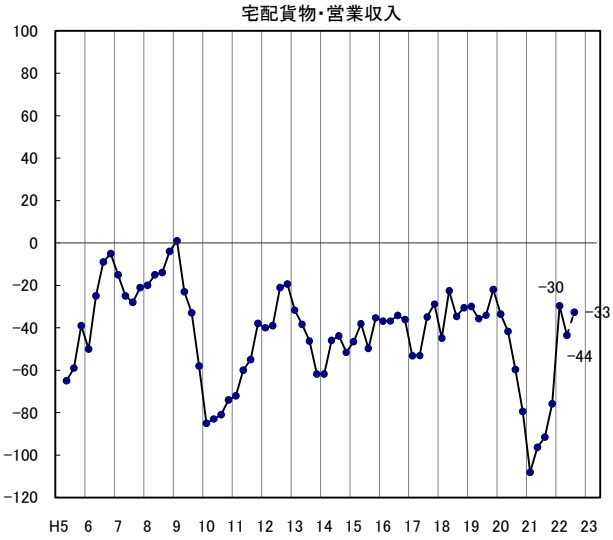
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成22年第2四半期実績、平成22年第3四半期見通し

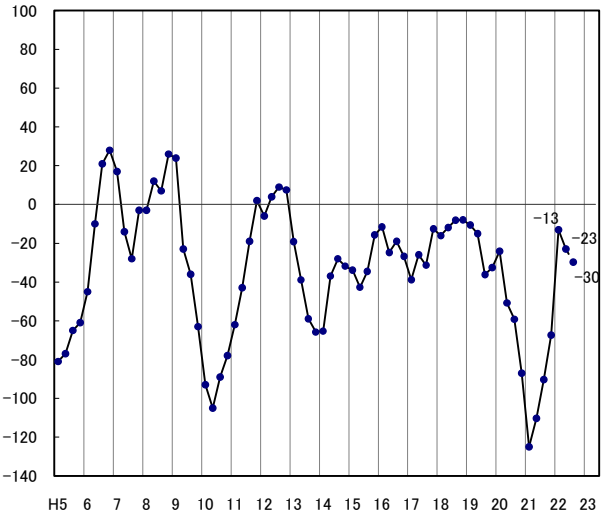
宅配貨物・輸送数量



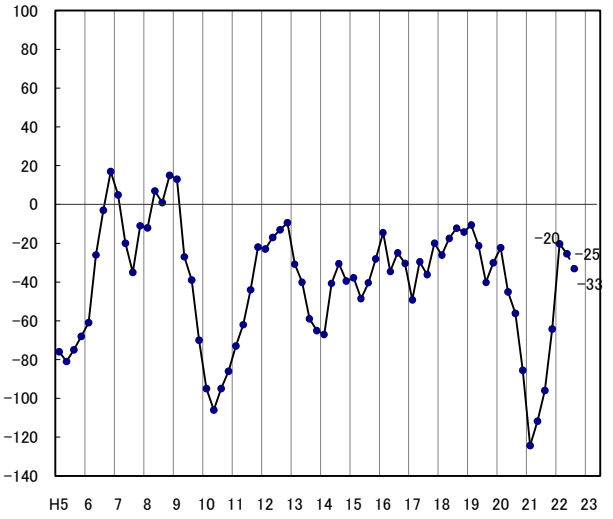
宅配貨物・営業収入



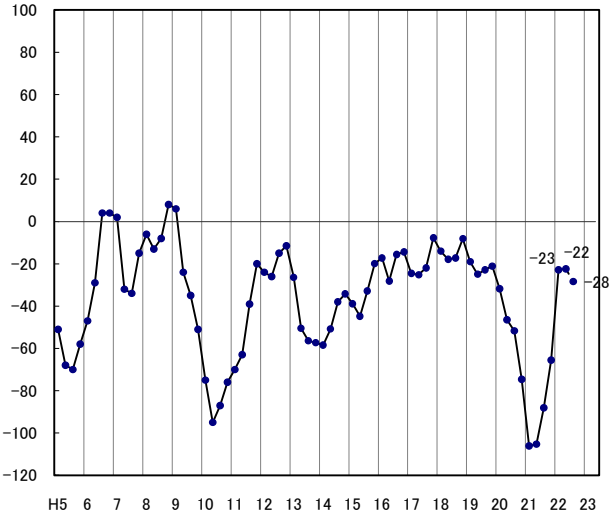
宅配以外の特積貨物・輸送数量



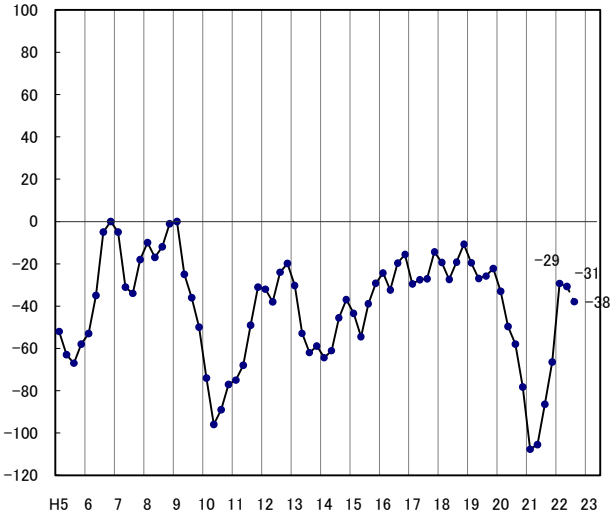
宅配以外の特積貨物・営業収入



一般貨物・輸送数量



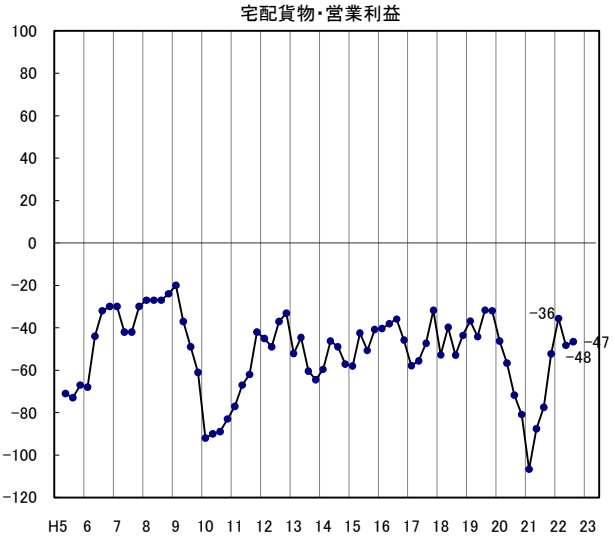
一般貨物・営業収入



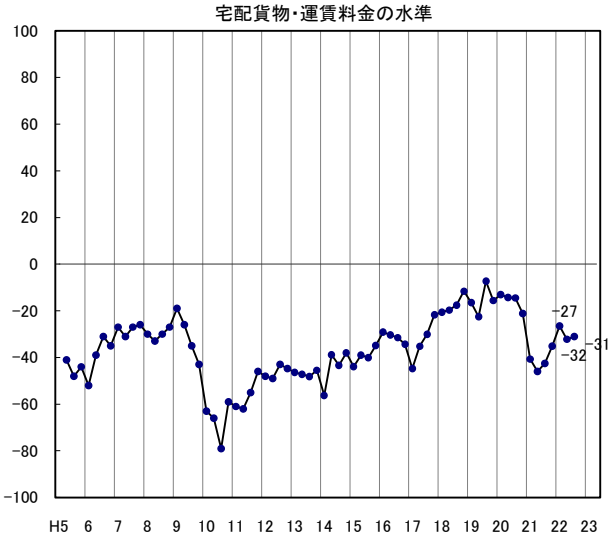
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成22年第2四半期実績、平成22年第3四半期見通し

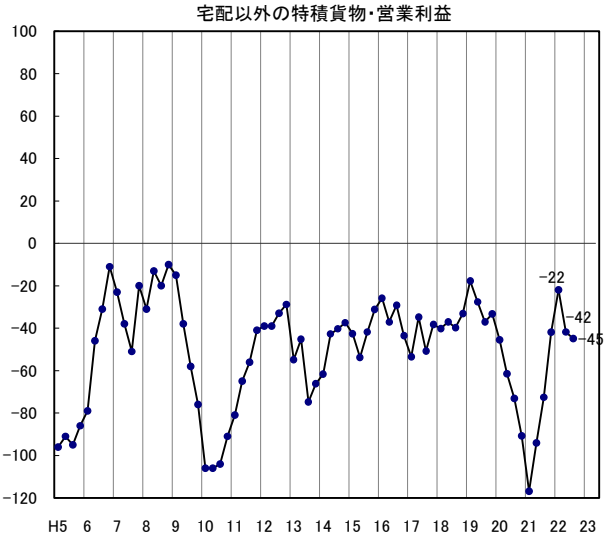
宅配貨物・営業利益



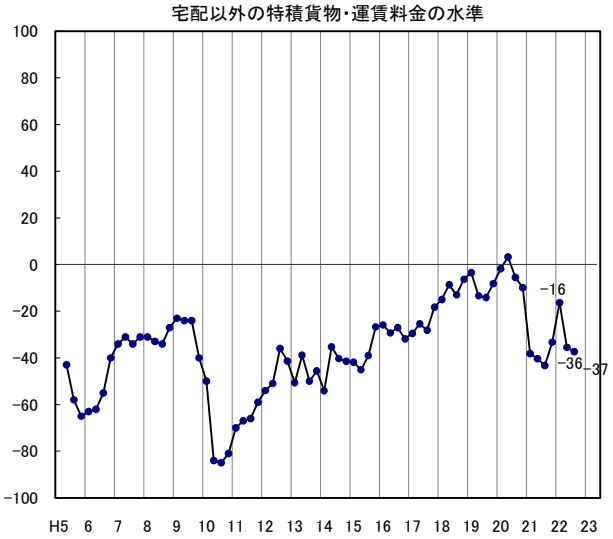
宅配貨物・運賃料金の水準



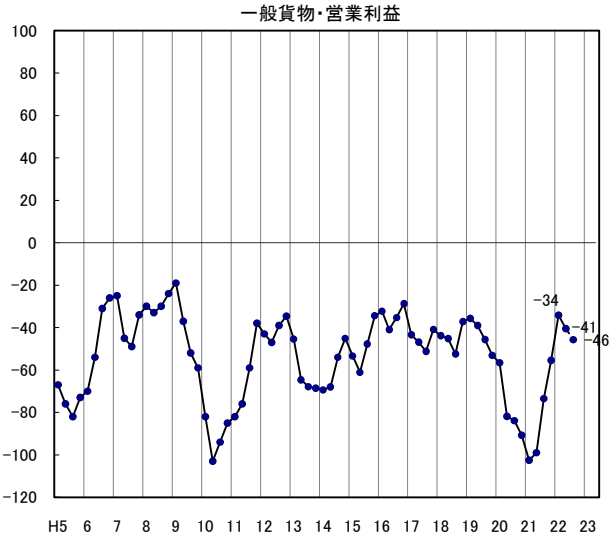
宅配以外の特積貨物・営業利益



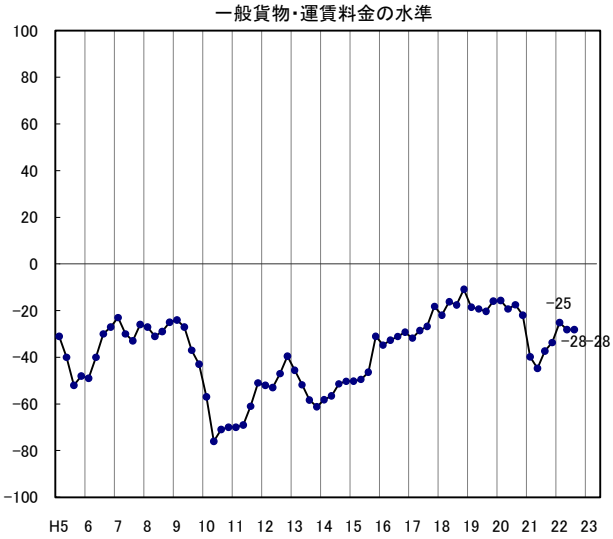
宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準



一般貨物・営業利益



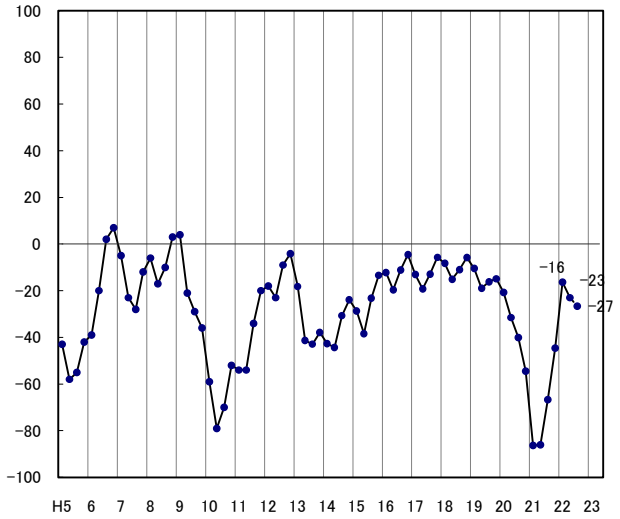
一般貨物・運賃料金の水準



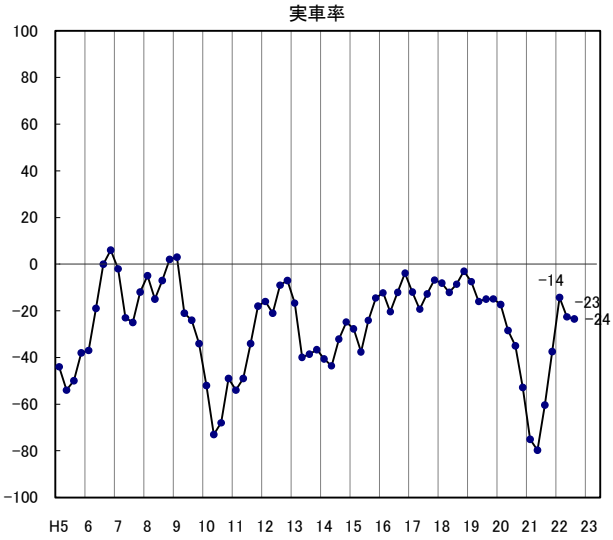
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成22年第2四半期実績、平成22年第3四半期見通し

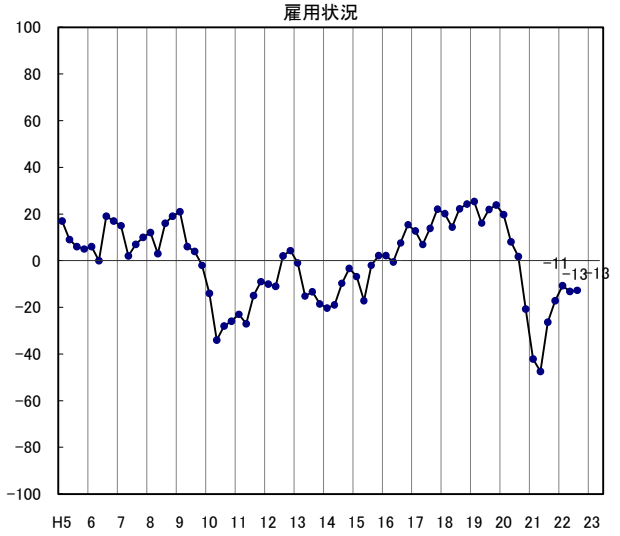
実働率



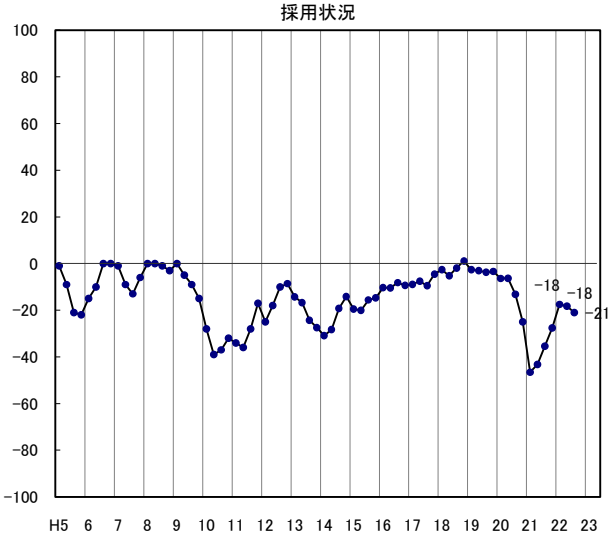
実車率



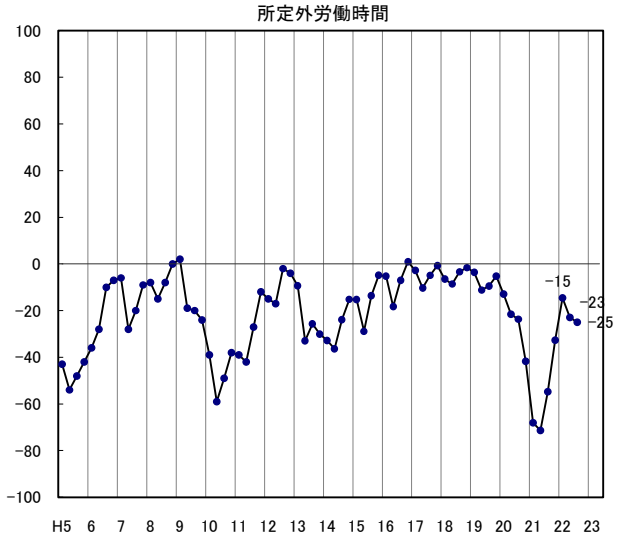
雇用状況



採用状況



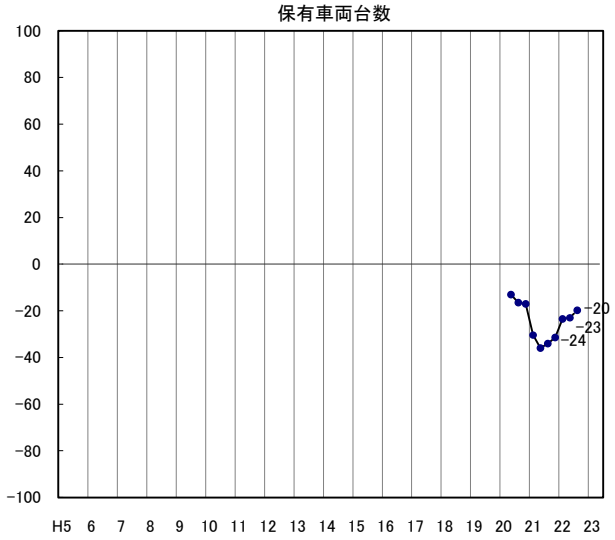
所定外労働時間



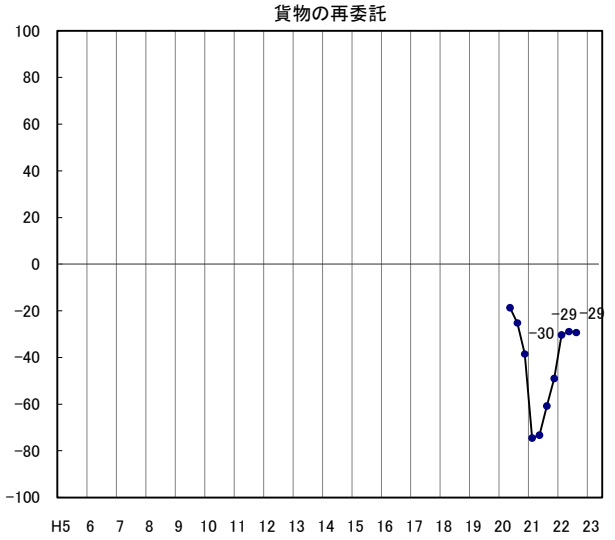
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成22年第2四半期実績、平成22年第3四半期見通し

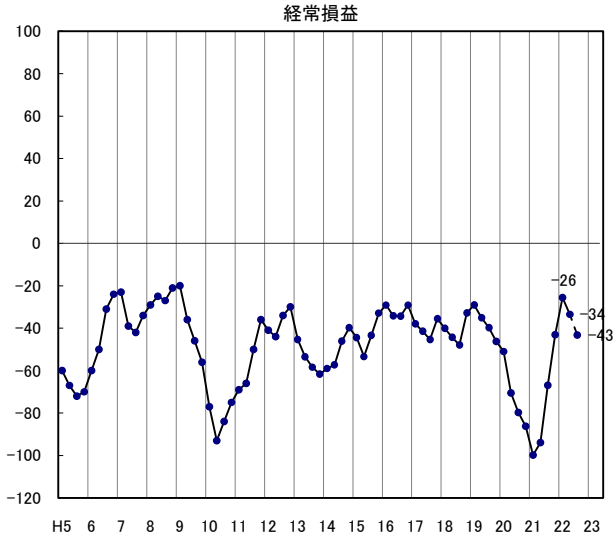
保有車両台数



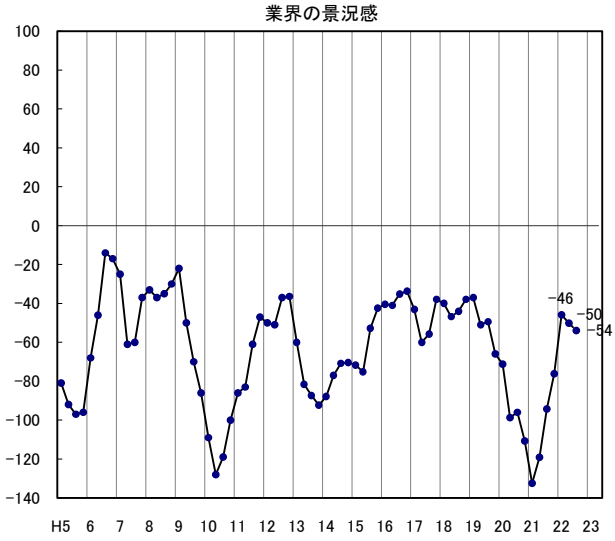
貨物の再委託



経常損益



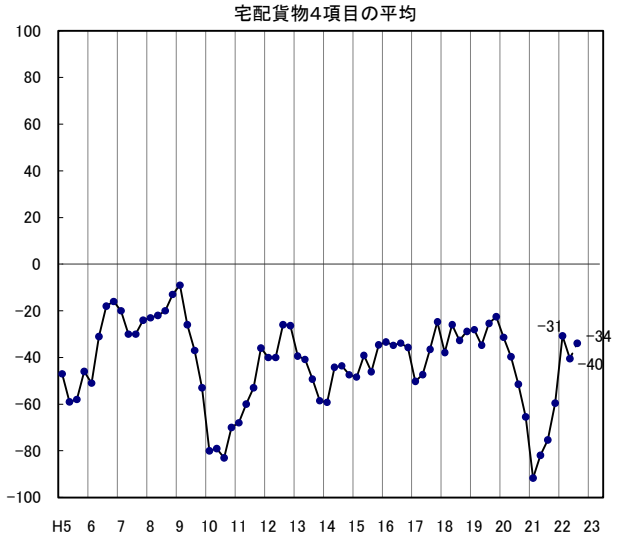
業界の景況感



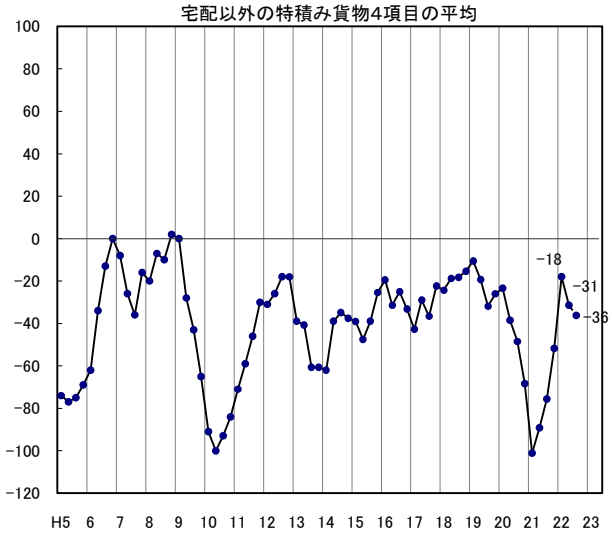
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成22年第2四半期実績、平成22年第3四半期見通し

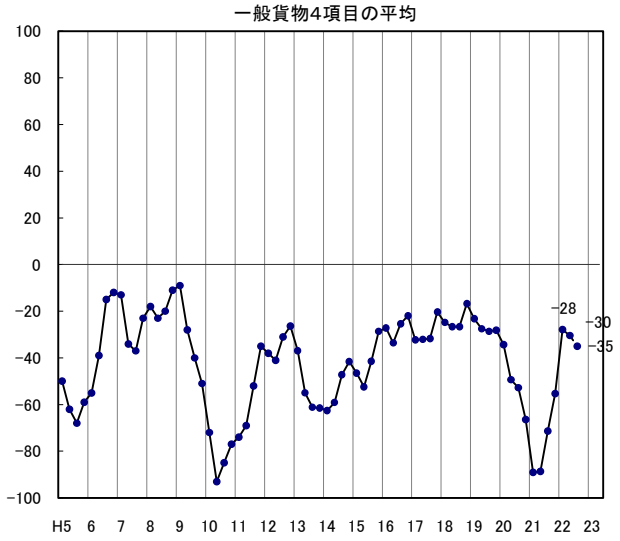
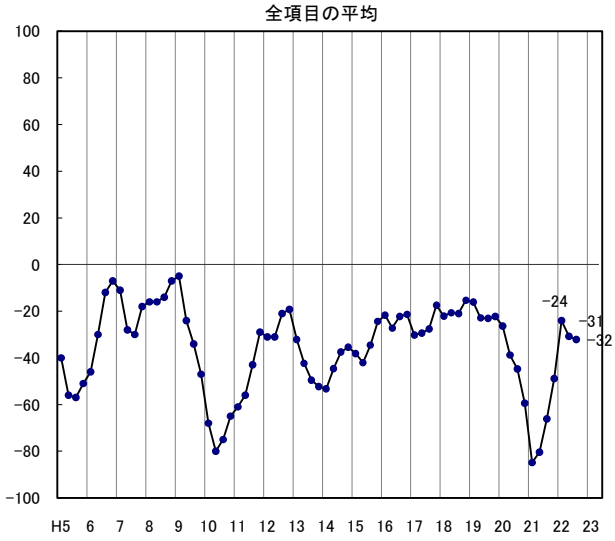
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均